

スポット

- ・新年あいさつ
- ・日帰り旅行 ・能登支援
- ・4市合同相談事業所交流会
- ・研修報告 ・新人紹介
- ・我が家のペット自慢
- ・インフォメーション

あかつき



写真① 施設全景

第88号 2025年1月31日発行

発行／編集 社会福祉法人 あかつきコロニー

〒208-0023 東京都武蔵村山市伊奈平1-64-1

☎042-560-7840

<http://www.akatuki.or.jp> Email:soumu@akatuki.or.jp

就労継続支援B型あかつき授産所 就労継続支援B型・就労定着支援スペース・まどか 就労継続支援B型瑞穂町福祉作業所さくら
瑞穂町心身障害者(児)福祉センターあゆみ 武蔵村山市障害者就労支援センターとらい 瑞穂町障害者就労支援センター 指定特
定相談支援事業・指定障害児相談支援事業あかつきコロニー相談支援センター



皆様、あけましておめでとう
ございます。

昨年も色々な事がありました。
振り返ってみますとまず、日本
を元気にしてくれた話題と言え
ば、日本中を沸かせた大谷翔平
選手です。50―50（50本塁打50
盗塁）を達成、ドジャースのワ
イルドチャンピオンにも貢献し、
二年連続MVPをとりました。
一昨年に手術した右肘のリハビ
リのため、打者一本で挑んだ今
季はドジャースの一番打者も経
験、私生活でも結婚から愛犬ま
で常に注目の的となりました。

同じ日本人として誇りに思いま
す。次にパリオリ・パラです。
メダル数はオリンピック45個、
パラリンピック41個と非常に健
闘しました。特に印象に残った
選手が、オリンピック陸上女子
やり投げの北口榛花選手、パラ
リンピック車椅子テニス男子の
小田凱人選手です。北口選手は
陸上日本女子フィールド種目初
の金メダリストという快挙に加

え、天真爛漫な人柄にも人気が
集まり、オフにはテレビにもか
なり出演しました。小田選手は
一八歳にして、パラリンピック
初出場にしてパラ車椅子テニス
男子史上最年少で金メダルを獲
得しました。九歳の時に骨肉腫
を発症し、主治医にパラスポー
ツを勧められ車椅子テニスを始
めたそうですが、非常に志が高
く、今後の活躍もおおいに楽し
みであります。

明るい話題の一方で、去年の
元日に発生した能登の地震は一
年経過した今も尚、復興は遅々
として進んでおりません。観測
史上七回目となる最大震度七を
記録した輪島市や志賀町の甚大
な被害の様子はテレビを通して
目に焼き付いています。幹線道
路は九割が復旧しましたが、中
心地より離れている場所ではま
だ片側通行の場所が多く、各地
で渋滞が頻発して、復興に不可
欠な資材の運搬の遅れが復興を
阻む要因にもなっています。こ

の新年をどのような想いで迎え
られたのか、能登の方々の心情
を察するに一刻も早い復興を願
うばかりです。

国外に目を向けると、長期化
するウクライナ戦争、ガザ紛争
から広がる中東地域の情勢不安
等、世界は今、緊張状態が非常
に高いと言えます。

この時期に日本原水爆被害者
団体協議会（日本被団協）がノ
ーベル平和賞に輝いたのは、今
の世相への危機感を如実に現し
ています。

授賞式では日本被団協代表委
員の田中熙巳氏が「人類が核で
自滅しないように」、「核なき
世界へ話し合いを」と核廃絶に
向けメッセージを発信しました。

「また被爆者らの高齢化を踏ま
え、これからは私達がやってき
た運動を次の世代の皆さんが工
夫して築いていくことを期待し
ています」と呼びかけました。

唯一の戦争被爆国である日本こ
そが核兵器のない世界の実現に
向け、国際社会をリードしてい
くべきではないでしょうか。こ
の受賞に対して日本政府がどの
ように応えるのか注目したいと
思っております。

さて、私は理事長としてここ
に居るわけですが、それは私の

幼い頃の怪我がもたらした縁で
あると言っても過言ではありま
せん。否、その怪我が父とあか
つきコロナーを繋ぎ、父の思い
を私が引き継いだと言った方が
正しいのかもしれない。

私は小学四年生の時に交通事
故に遭いました。今から約七〇
年前、当時は良い病院もなく、

父は非常に苦労したと聞いてい
ます。現在私は障害者手帳五級
です。右足首が曲がりません。
しかし、毎日一万歩を歩きます
し好きなゴルフをして、スコー
は100前後ですが、非常に楽し
んでいます。今の私が在るの

は父が一生懸命病院を探してく
れたお陰なのですが、その過程
で父は川上幸一氏（後の第四代
目理事長）と親しくなり、法人
設立に力を注ぐようになりました。

当時父と親交のあった鳩山
威一郎氏の紹介で日産自動車の
オイルエレメントの下請けまで
辿り着いた訳です。

あかつきコロナーは最初の認
可（一九六八年）から既に五六
年が経過しています。父や川上
先生ら諸先輩方が苦労して創り
上げてきたあかつきコロナーが、
今や220名程が在籍するまで
になりました。老朽化しいよい
よ建替えを控えたこの建物を前

に、あかつきの礎を築いてきた
先輩方に想いを馳せると感慨も
ひとしおです。

厚生労働省がまとめた数字に
よると二〇二三年の国の身体障
がい者は約436万人、知的障
がい者は約194万4千人、精
神障害者は約419万3千人、
合わせて約964万7千人とな
り、全体の約7.6%、ざっと

人口の13人に1人強は障がい者
ということです。高齢化により
今後右肩上がりで増えていく
と予想されます。一方で障がい
者の法定雇用率が今年度、2.

5%（民間企業）に引き上げら
れ、今後も引き上げが予定され
ています。法定雇用率の引き上
げが雇用を推し進めていること
は事実です。しかし、現場の体

制が追い付かないままに引き上
げられる雇用率と達成義務化に
より、障がい者雇用のあり方に
疑問や課題が生じています。本
当の意味で社会で共に働くこと
を実現するためには、職場を含

めた社会全体に障がいに対する
理解や認識を更に浸透させる必
要があります。

この一年も法人運営を通して
共に働き、共に生きる社会を創
り上げていくよう、皆様と共に
取り組んで参りたいと思います。



あけましておめでとうござい
ます。

令和も早いもので7年目の年
となり、法人も創立57年目の年
を迎えることとなりました。

昨年は年明け早々の1日に能登
の震災が発生し多くの犠牲者が
出ました。今なお避難生活を余儀
なくされている方が多くおり、一
年たった今でも終息はできていま
せん。本年は大きな災害が起き
ないことを願うばかりです。

昨年は建て替え工事を実施す
べく準備を進めてきましたが、
工事費の高騰や人手不足等の影
響もあり、昨年10月に行った入
札は不調の結果となってしまう
ました。その後図面の変更等
を行い、再入札に向けて進めてい
るところですが、この原稿を書
いている時点ではまだスケジュ
ールが定まっていない状況です。
何とか早く再入札を実施し、建
て替え工事を進めていきたいと
思っております。

現在の建物の大部分は昭和49

年から昭和55年の間に3回の工
事で建てられた施設ですので、
築50年から築46年になります。
私があかつきコープに入社し
たのが昭和62年ですので、大体
築10年が過ぎた頃でした。鉄筋
コンクリート造4階建ての建物
は、当時としては立派な風体を
構え、周辺は畑しかなく高い建
物は無かったので、遠方からも
そびえたち目立つ建物でした。

共に年月を重ね、共に歩ん
できた37年ですが、現在の建物は
私のコロニー人生そのものが詰
まっている場所でもあります。

その建物もうすぐ解体され、
来年4月には新築されますが、
やはり50年間支えてきてくれた
建物であり、その姿をこの紙面
にて残していきたいと思えます。

写真①(表紙写真)は、建物を
南側から撮った写真です。右から
本館4階建て、作業棟3階建て、
新館3階建てと並んでいます。が、
かなり壁が汚れ劣化が目立ってい
ます。各階の斜めの外階段が特徴

ですが、本体壁から分離された構
造になっていて、何となく降りる
のが怖い感覚があります。

写真②は建物を東側から撮っ
た写真で、2階から4階が写っ
ています。柱の数の多さがいか
にも昔の建物といった印象で、
2階と3階は以前は利用者が生
活していた寮でした。4階は食
堂となっております。今でも給食を
提供しています。また4階の右
端は大浴場と小浴場があり、入
所施設の名残が残っています。
厨房と浴室の下は寮の居室があ
りましたが、防水の劣化からよ
く水漏れが発生し、修理に苦慮
したものでした。

写真③は真ん中に位置する作
業棟の屋上が自由に出入りでき
る屋上となっております。

それなりの広さがあり、休憩時
間の憩いの場となっております。天
気がいいと富士山もよく見え気持
ちがいい空間です。昔は屋上で納
涼祭や盆踊りも行っていました。が、
今では近所迷惑になることから出
来なくなっています。

写真④は食堂です。広くはな
いですが4階にあり窓も大きい
ので、光が煌々と入り眺めがよく、
気持ちよく食事ができる空間に
なっています。

名残惜しい気持ちもあります
が、建物も老朽が進み、施設と
しての機能も限界にきています。
建て替え後は現在の就労継続支
援B型事業に加え、就労移行支
援と生活介護を新設し、新たな
50年が始まります。結核回復者
の働く場から始まった第一期は
旧建物と一緒に一区切りし、次
の世代には新しい建物で新たな
歴史を築いていってもらいたい
と願っています。

本年も皆様のご指導、ご協力
のもと障害者の自立支援、就労
支援に尽力してまいりますので
よろしくお願いいたします。



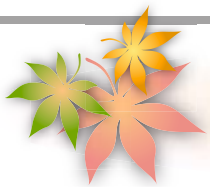
写真②



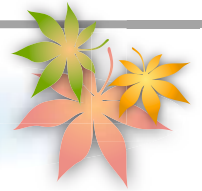
写真④



写真③



日帰り旅行



10月17日

瑞穂町心身障害者（児）福祉センター あゆみ

10月17日(木)、埼玉県日高市にあるサイボクハムへ日帰りバス旅行に行きました。昨年の旅行では、三井アウトレットパーク入間のビュッフェレストランで昼食を食べ、その後に所沢航空公園の航空記念館へ行きましたが、1日2か所を回るスケジュールはやや忙しく感じたため、今年は1か所をゆっくり満喫することにしました。旅行には利用者11名、職員9名が参加しました。



旅行の朝は利用者を乗せた送迎車は箱根ヶ崎駅西口に直行し、そこで待機していた観光バスに乗り換えます。平日の昼間ということもあり、渋滞もなくサイボクハムには11時半ごろに到着しました。天気は快晴で、到着後は皆で集合写真を撮りました。

昼食は、サイボクハムの温泉施設内にある「レストラン

花鳥風月」で食べました。事前に3つのメニュー（ハンバーグ膳、やわらか角煮膳、名物とんかつ膳）の中から好きな物を選んでいただきましたが、ハンバーグ膳が一番人気で、次にとんかつ膳が人気でした。サイボクハムのレストランということでお肉料理はとても美味しかったです。

昼食後は自由時間で、お土産を買いにミートショップ（ウインナーやハム、コロッケなどのお惣菜やパンを販売）へ行ったり、サイボクキッチンという軽食を扱うお店でソフトクリームやフライドポテトなど食べたりして過ごしました。

皆さんのお腹が満たされたところで帰りの時間になりました。バスに乗りし、行きと同じく箱根ヶ崎駅西口で送迎車に乗り換え、帰路につきました。

美味しい物を食べて、ゆっくり過ごすことができた良い旅行でした。
文：利根川 正



11月22日

就労継続支援B型瑞穂町福祉作業所さくら

令和6年11月22日(金)、福祉作業所さくらでは日帰り旅行で「富士サファリパーク」に行ってきました。当日は曇りで雨は降りませんでした。富士山を見ることは出来ませんでしたが、時々晴れ間がのぞく場面もあり数々の動物たちの姿を見ることが出来ました。

さくらの近くの瑞穂斎場の駐車場で1台の大型バスに全員で乗り込み、圏央道、東名高速を利用し一路「富士サファリパーク」まで向かいました。しかしながら、さっそくの渋滞に巻き込まれ、行きの道中で予定より1時間押しのハプニングでスタートしました。パーキングエリアでの休憩を取りつつ、まずは「御殿場バイキングレストラン麦畑」で昼食を取りました。1時間半の予定を1時間に切り詰めての昼食でしたが、皆さん思い思いの料理をお皿一杯にとってきて、時間一杯まで食事を楽しみました。



本日の目玉「富士サファリパーク」に到着した際には天気にも恵まれ、大型バスに乗ったまま動物たちの元へ進んでいきました。まず初めにク

マ、ライオン、チーター、トラと獰猛な肉食動物たちのエリアが続き、それぞれの堂々としたたず



まいに皆さん興奮の車内。その後、ゾウ、サイ、キリン、ラクダ、シマウマ等と草食動物のエリアでも元気な動物たちの姿にまだまだ興奮状態。気が付けばあっという間の散策時間でした。

お土産の時間も若干切り詰めて再び東名高速、圏央道に乗りますが、再び1時間押しの渋滞。17時過ぎにさくらに到着予定でしたが、実際には19時過ぎになってしまいました。またそこからさくらの送迎バスで帰宅される皆さんが帰宅したのは20時を超えている方もいました。

コロナ過もあり数年間行えなかった日帰り旅行でしたが、昨年度の八景島シーパラダイスに続き今年度も誰一人怪我もなく、渋滞以外は無事に終えることが出来ました。道中、おとなしい方がたくさん喋る姿など、普段見られないような姿も見受けられて職員としても驚きがありました。

翌週から普段の仕事の日々に戻りましたが、また次回の日帰り旅行の無事に参加出来るように日頃から健康で元気に、今後も共に働く活気のある事業所にしていきたいと思っています。
文：西出 英高

JDF能登半島地震支援センター派遣 支援報告

(令和6年9月3日～7日)

総務 松木 千香

『能登はやさしや土までも』

人はもとより土までも優しいという能登半島へ、令和6年9月初旬に障がい者の方の被災地支援として現地入りました。

七尾市のある日本茶屋の家で『この茶器もらったいいか?』と見知らぬ中国人が家に来て、精神障がいの方のお宅から、高価なものを持って行ったと聞きました。二階の屋根裏部屋から、これは要る、これは要らないと、必要のないものは軽トラへ積み込み運搬しました。現在は目の前の仮設住宅へ移り住み、家は狭いけどエアコンが効いて快適だと笑顔でお話をされていました。

輪島市にお住まいの筋ジストロフィーのご兄弟のお宅は半壊の状態でした。入院している病院からかけつけ、家に残っている大切なものを搜索しに、一緒に家の中に入りました。

家の中は地震発生当時のまま、ダイニングテーブルには元日の食事の食器が散乱していました。携帯電話のライトで足もとを照らし、物をかき分けての搜索でしたが、家の中を土足で搜索している状態に気が引けました。印鑑や一級建築士の免許証などを見つけて出し、『障がいを持っているからこれが無いと仕事に就

くのが難しい』とおっしゃって胸ポケットにしまわれていました。

七尾市のマンションの一角の一部屋が、飲みかけのペットボトルで埋め尽くされ、そのペットボトルの中身をすすいでキャップとペットボトルに分別するという支援をしました。軽トラ2台分のペットボトルを近くの産業廃棄物処理場に持ち込む作業をお手伝いしました。何年も経過しているであろうペットボトルの中には、ペットボトルの蓋を開けると炭酸ではないのにシュワツといったり、中からナタデココみたいなものが現れたり、とにかくあと二、三口で飲み終わるのに飲みきれずそのまま何年も経ってしまっていました。こちらの方の片付けは一日では終わらず、来週以降の支援者のクールに引き継ぎをしました。

今回の支援では、震災当時のお話やご家族の話などをうかがいながらその方のペースに合わせ

せて片付けを進めていきました。

中には、重たいものを運んでもらいたかったから男性が良かったと言われることもありましたが、皆さん目に涙を浮かべ、地震は仕方のないことだからと言いきかせ、少しだけ前向きに現状を受け入れているといったように感じました。

写真は、支援の最終日に撮った一枚です。熊本、福井、奈良、横浜からかけつけた一同です。



『4市相談支援事業所交流会』

あかつきコロナ相談支援センター

主任 神山 明美

12月13日、東村山サンパルにて4市相談支援事業所交流会が開催され、参加しましたので、報告をさせていただきます。

4市相談支援事業所交流会とは、小平市、東村山市、東大和市、武蔵村山市の相談支援事業所の情報交換の場として設けられました。コロナ禍の前までは、相談支援事業所交流会が定期的に行われていました。例えば、報酬改定に伴う意見交換会やドキュメンタリー映画の上映会の開催など、相談支援に関する学習会を行い、地域を越えて相談事業所間の情報交換・交流を行っていました。今回は、各市の相談員から以前

の様な交流会の開催を望む声が多数上がり、5年ぶりの開催となりました。

事前に各市の主任相談支援専門員や基幹相談センターなど拠点機関の職員が中心となって企画会議を行いました。企画をする中で各地域の拠点機関の繋がりを強固にし、各市での拠点機関の取り組みの一助となることも目的とされており、交流会のテーマは『日々の支援の困ったこと・地域課題はどうしている?』『普段の悩みや自立支援協議会の活用など、地域を超えて、みんなで考えよう』と決まりました。

当日は70名近い相談員が集まりました。第1部は各市から、自立支援協議会の取り組みについての発表でした。

地域の課題をどう取り上げて、解決に繋げているかの事例が発表されました。地域によって人口や環境、社会資源等も異なりますが、障害者状況を比較するとその割合や傾向は類似していました。各市の自立支援協議会については、その組織や構成、また運営は様々でしたが、課題解決に向けて、研究会やワーキンググループを設けての検討や新たな支援事業の創設など、他市の取り組みは大変参考になり、意見交換も活発に行われました。

第2部は日々の困りごとや地域の課題の解決に向けた取り組みをテーマにグループワークを行いました。グループ内では他事業所の相談員が日々の支援に同じような悩みや疑問を抱き、それを共有することで、新たな発見や捉え方のヒントを見出すことが出来ました。短い時間のワークでしたが、収穫で

きたことはそれぞれとても大きかったのではないかと思います。今回は近隣地域での相談支援専門員の交流会の報告をさせていただきましたが、これからも地域での連携を深め、地域福祉、支援の充実を共に考えていきたいと思っています。

研修報告

初任者研修に参加して

あかつき授産所

作業部二課 宮川 浩樹

2024年10月1日2日の二日間、東京都社会福祉保健医療研修センターにて初任者研修を受講させていただきました。

福祉業界での経験が全くない私にとって、この研修は新たな知識や考え方を学び、さまざまな福祉の基本理念に触れる貴重な機会となりました。

まず、事前課題として、テキストを読み重要と感じたポイントと活用の視点の書き出しと自己プロフィールを作成しました。そして、それらを講義の中でグループ内発表をし合い、分野の違いや経験の違いでそれぞれが感じるポイントが違い、また、同じポイントでも活用の視点が違ったりと、とても貴重な意見交換をすることができました。

講義に参加されていた方々には高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、就労支援などさまざまな福祉分野の方が居ました。そのさまざまな分野の方々とグループを組みグループワークを通じてお互いの現場からの観点で議論をすることで、ひとつの問

題もいろんな角度からの視点やアプローチがあるなど幅広く学ぶことができました。私のグループメンバーの方は現職場以前にも経験を積まれている方が多く、議論を重ねていく中で福祉の重要性とその奥深さを実感しました。

グループワークでの議論をする際も「進行役、タイムキーパー、発表者」など役割を決め、グループ内全員が順番で全役割を担当し、話を進める大変さやサポートの重要性を感じることができました。

そして、グループワークを通じて感じたのは、福祉のすべての分野に共通する「利用者さん一人ひとりの尊厳を守り、自立を支援する」という理念の重要性でした。高齢者、障害者、子ども、それぞれの分野において、支援員として利用者の目線に立ち、その人らしい生活をサポートすることが求められていると感じました。また、福祉の仕事は一人で完結するものではなく他職種や地域社会との連携が必要不可欠であることも学びました。

今回の初任者研修2日間を通じて、未経験である私でも福祉の基本的な知識を学ぶことができ、少なからず自信を得ることができました。そして、福祉の仕事が「人の生活を支え、社会

に貢献するやりがいのある仕事」であると実感しました。同時に現場で経験を積むことでしか身につかないスキルも多いと感じました。今後は、初任者研修で学んだ事をもとに、実際の福祉現場で経験を積みながらさらに知識を深めていきたいと思っています。この経験を大切にし、今後も学び続ける姿勢を忘れずに前進していきたいと思っています。



法人内研修「仕事に対する姿勢」

あかつき授産所

課長 茂木 伸之

当法人では、研修委員会で研修内容を立案し、毎月動画視聴研修と、上期、下期と年2回の法人内研修を実施しております。

9月18日、19日に開催した法人内研修につきましては、上層部から新人職員、また非常勤職員を含め、支援の質の向上や外部機関等とのより良い関係性を保つために、改めて社会性や接遇マナーに視点をあて、「仕事に対する姿勢」というテーマのもと、福祉職における仕事に対する姿勢や心構え、組織で働く際に守るべきこと、福祉職に特有の重要な要素について、オンラインにて外部講師をお招きし学ぶ場を設けました。

研修内容として、6つの項目があり、個人ワークを取り入れた研修が実施されました。

①【仕事をする時の心構え】
の中では、(福祉のプロとしてのこだわり)という個人ワークがあり、発表者からは「利用者一人ひとりに合った支援の提供を行う事」や「専門的な知識やスキルを身につけて、支援に活かしていく」などの意見がありました。

②【組織で働く時に守りたいこと】では、組織のルールを守る事、担当業務を最後までやり遂げる責任感、新しいスキルなどを習得する自己成長、周りの人と協力し仕事を進めるチームワークの大切さの学びがありました。

③【福祉職の三種の神器】ではメラビアンの法則のお話があり、人がコミュニケーションを取る際、言葉(7%)、声のトーン(38%)、視覚情報(55%)の割合で相手に影響を与える法則があることを知りました。つまり言葉よりも声のトーンや表情などの視覚情報の方が印象に大きく影響をするため、言葉だけでは不十分であることや、第一印象が大切な事との学びがありました。

④【福祉職に求められる3つの力】では、(アクション)

挑戦する行動力、(シンキング)問題解決能力、(チームワーク)メンバーと協力し目標達成と、働く上で重要な3つの力と感じ、当法人でも必要な力だと感じました。

⑤【チームワークとは】では(あなたの職場での役割)という個人ワークがあり、自身の役割を文字にすることで、自分を振り返り役割を明確にすることができたのかと思います。

⑥【報告・連絡・相談の重要性】では、仕事を進める上で欠かせないコミュニケーションの基本となり、チームワークを円滑にし業務効率を向上させるため、社会人として重要な事との学びがありました。

研修委員会で感想をまとめた結果、チームワークや職員間でのコミュニケーション不足を感じたこと。チームワークを良好にするためには報連相が重要ということを再認識したとの意見が多くみられました。この研修を通じて、チームとしてそれぞれの役割に責任を持ち、職員間でもコミュニケーションを図り同じ目標を持つ事で、支援の質の向上や職場としてより良い環境づくりを職員全体で意識出来ればと思います。



出張・研修

8月

- 2 瑞穂町自立支援協議会
(戸村・西出)
- 6 依存症講習会
(神山)
- 8 WJ理事会
(高橋)
- 9 精神業務連絡会
(藤澤・富田)
- 15 現任研修ファシリ
(16日迄 神山)
- 20 武蔵村山市地域相談支援部会
(神山・増測)
- 虐待防止・権利擁護研修
(山崎純)
- 21 武蔵村山市就労支援部会
(富田・茂木・神山)
- 22 虐待防止・権利擁護研修
(橋本)
- 27 就労ネット
(鈴木)
- 工賃アップセミナー
(大庭)
- 相談支援現任者研修
(28日迄 戸村)
- 28 武蔵村山市自立支援協議会
(高橋・富田)
- 9月
- 2 多摩総合公開講座
(富田)
- 3 JDF能登被災地支援
(7日迄 松本)

- 4 虐待防止・権利擁護研修
(田中隆)
- 10 精神就労定着支援研修
(齋藤)

- 12 けるん講演会
(富田)
- 12 ゼンクロススキルアップ研修
(13日迄 遠藤)
- 13 地域連携会議(藤澤・富田)
- 17 武蔵村山市地域相談支援部会
(神山・増測)
- 18 接遇・マナー法人内研修
(加藤千)
- 19 接遇・マナー法人内研修
(戸村)
- 24 防火管理者研修
(戸村)
- 24 瑞穂町就労部会
(戸村・西出)
- 25 サビ管更新研修
(藤澤)
- 26 就労ネット
(鈴木)
- 27 初任研修ファシリ
(神山)
- 30 任意の会
(鈴木)
- 30 就労選択支援勉強会(富田)
- 障害者雇用連絡会議(中原)
- 10月
- 1 初任者研修(2日迄 宮川)
- 3 強度行動障害研修(田中隆)
- 11 精神業務連絡会
(藤澤・富田)
- 7 サビ管更新研修
(戸村)
- 15 武蔵村山市地域相談支援部会
(神山・増測)

- 17 WJ国際交流(高橋・遠藤)
- 18 防火管理者研修
(戸村)
- 22 安全運転管理者講習(永井)
- 23 武蔵村山市就労支援部会
(富田・茂木・神山)

- 24 社福法人連絡会(西出)
- 24 WJ国際交流(高橋・遠藤)
- 29 就労ネット(鈴木・田中隆)
- 29 JD労働雇用意見交流会
(遠藤)
- 30 初任研修ファシリ
(31日迄 神山)
- 31 東久留米特別支援校連絡会
(富田・鈴木)
- 1 WJ理事会
(高橋)
- 6 多摩連絡会議
(富田)
- 8 地域連携会議
(藤澤)
- 7 食品衛生講習会
(大月)
- 13 強度行動障害研修
(増測)
- 15 羽村特支運営連絡協議会
(西田)
- 19 武蔵村山市地域相談支援部会
(神山)
- 20 ゼンクロススキルアップ研修
フォロアップ
(遠藤)
- 22 権利擁護連絡会議
(富田)
- 25 西多摩の会
(利根川)
- 27 武蔵村山市自立支援協議会
(高橋・富田)
- 初任研修ファシリ
(神山)

12月

- 28 クリーニング従事者講習
(田中駿)
- 就労ネット
(鈴木)

- 5 強度行動障害研修(田中隆)
- 10 安全運転管理者講習
(五十嵐・戸村)
- 12 たらんと講演会
(富田・利根川・中原)
- 13 虐待・身体拘束法人内研修
4市合同相談支援交流会
(神山・増測)
- 17 精神業務連
(藤澤・富田)
- 武蔵村山市地域相談支援部会
(神山・増測)
- 18 虐待・身体拘束法人内研修
あすはの会事例報告会
(神山・増測)
- 20 武蔵村山市就労支援部会
(富田・茂木・神山)
- 20 強度行動障害研修(田中隆)
- 23 就労選択支援勉強会(富田)
- 26 就労ネット(鈴木・田中隆)

*出張・研修にはリポート
による会議も含まれます。

入所・退所

入所

- 8月 S・K (さくら)
- 9月 會田 千秋(あゆみ)
- 10月 中原 敏子(瑞穂就労)
- 福岡 菜央(授産所)
- 島田 俊夫(授産所)
- 退所
- 8月 武藤 浩一(とらい)
- 9月 井上 弘樹(授産所)
- 齊藤 寿之(授産所)
- 橋本 達典(まどか)
- 岡部 伸司(あゆみ)
- 10月 服部 泉(あゆみ)
- 11月 永井 章博(まどか)

寄贈

9月18日、ブルミッシ
ユ様よりお菓子のご寄贈を
頂きました。謹んで御礼申
し上げます。

12月21日、福祉センター
あゆみにおいて、イオンモ
ールむさし村山様よりクリ
スマスプレゼントのご寄贈
を頂きました。謹んで御礼
申し上げます。